

学校教育目標	「人にやさしくありがとうの心で がんばるがんばる最後まで 本気で取り組むひがほんの子」 ○自ら課題を見つけ、解決に向けて根気よく取り組んでいこうとする子を育てます。(知) ○自他のよさを認め、思いやりの心をもって、共に生きようとする子を育てます。(徳) ○心と体を鍛え、自分や人の命を大切にすることを育てます。(体) ○地域社会のために自らができることを考え、実践しようとする子を育てます。(公) ○様々な人や団体とのコミュニケーションを通じて、お互いを理解し合える子を育てます。(開)				
	創立 48 周年 児童生徒数: 688 人	学校長 堂腰 康博 主な関係校: 東鴨居中学校・鴨居小学校 城郷中学校・城郷小学校・小机小学校	副校長 松久保 俊文	2 学期制	一般学級: 20 個別支援学級: 6

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	中学 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
〈言語能力〉 〈問題解決・課題解決〉 〈情報活用能力〉 〈自分づくり〉	東鴨居中学校 鴨居小学校	仲間や地域との関わりの中で、ともに学び続ける子ども 豊かな感性を磨き、社会の一員としての自覚をもち、自立して生きていく子ども 「子ども同王つながり、伝え合う」をブロック授業研究会のテーマとして設定し、各教科等においてテーマを意識し、一単位授業の中に「対話」の場面を取り入れた授業を展開する。 ・授業参観、部活動体験、文化祭、ボランティア活動等を通して、中学校生徒との交流を深め、中学校への円滑な接続を目指す。 ・児童生徒の指導上の課題を共有し、問題行動の裏にある子どもの気持ちを大切にしながら解決に向かう。

中期 取組 目標	目指す子どもの姿 ○子どもが自ら「問い」を見出し、課題解決のために主体的に学び、互いの考えをつなぐ学習を通して、見方・考え方を広げ、学ぶ楽しさややり遂げる喜びを実感している。 ○多様な価値観や背景をもつ集団の中で、互いの考えや意見を認め合いながら学校生活上の問題、まちや社会の課題を解決していくことで自分自身を成長させている。 1年目:各教科において言語活動を充実させながら、授業の中でペアやグループ、学級全体で子どもたちが伝え合う活動を楽しんでおり、共に関わり合いながら学ぼうとしている。 2年目:互いに関わり合いながら主体的に伝え合うことで、自分の考えを深めていく力をつけている。 3年目:自信をもって伝え合うことで、グループや学級の考えを発展させたり、より豊かな表現を工夫したりする。
----------------	--

重点取組分野	具体的取組
<b>知</b> 生きてはたらく知	①教科担任制など、教師それぞれの専門性、教科研究を進めていくことで、児童の成長を見取る力を高め、実態に合わせた授業づくりを進められるようにし、基礎基本の確実な定着を図る。②個の見取りと並行して協働的な学びを一体化していくことで、他者との学び合いから考えを深められるようにする。③学んだことを他教科でも活用する場面を設定していくことで、児童が見方・考え方を広げ、自ら学びを進めていこうとする姿勢を育てる。
担当 重点研究推進	
<b>徳</b> 豊かな心	①異学年交流を実施し、相手を思いやる気持ちや自己有用感を育てる。②人権標語を学級ごとにつくり、常時掲示し、学校全体で人権を大切にする風土をつくる。振り返りも定期的に行う。③みどり支援学校との交流や児童会活動を工夫して実施し、様々な人とのより良い人間関係の基盤を培うようにする。
担当 保健・人権部	
<b>体</b> 健やかな体	①学校保健委員会では「右側通行」をテーマに、けが防止や安全な登下校に対する意識を高めるようにする。②メンター研を中心とした職員研修を定期的に行い、授業内での安全管理や場や用具の工夫等を共有し、授業改善に取り組む。③年間計画に基づいた食育を教科・領域と関連させ、効果的に進めるようにする。
担当 体育部	
<b>公開</b> 地域学校協働活動	①PTAや地域との関わる機会を多くとっていく。連携を図って体験的な学習や総合的な学習につなげていけるようにする。②学校運営協議会や地域諸機関との連携を行い、地域に関わっていけるようにする。③授業サポートを行ってもらう「ひがほん学びサポーター」を募集し、保護者と連携をとっていく。また、地域コーディネーターと連携を行い、地域の人材を活用できるようにする。⑤幼小の連携を図り、児童間、職員間の交流を深め、教育活動に生かしていく。
担当 地域連携事業推進	
<b>いじめへの対応</b>	①いじめの未然防止や早期発見のために、いじめアンケート、YPアセスメントを活用し、日頃から児童の見守りや信頼構築に努めるようにする。②児童支援専任や各学年の児童指導員を中心に、児童の実態把握と情報交換を行うようにする。③いじめ防止基本方針を基に、いじめ防止対策委員会を中核として全教職員がいじめに対する共通理解、児童の見守り、速やかな対応を進めるようにする。
担当 児童指導部	
<b>人材育成・組織運営(働き方)</b>	①重点研やメンター研をはじめとする研究・研修の充実を図るとともに、新しい研修システムを活用し、学校に求められる人材の育成と組織の向上を図る。②各部主幹教諭が統括的役割、各部主任が中心的役割を果たし、機能的な学校運営を推進するようにする。③新日課表を実施する中で、質の高い授業づくりを実現していくとともに、長時間労働の削減に努める。
担当 教務部	
<b>情報教育</b>	①ICTのより効果的な活用を目指し、学年ごとに目指す姿を明確にして教育活動全体ではなく資質・能力(情報活用能力)の育成を目指すようにする。②タブレット活用の約束を周知し、児童自らがGIGA端末の使い方について考えられるように継続的に指導を続ける。③デジタル教材を一層普及させ、場面に合わせてデジタル教科書と紙の教科書のどちらも活用できる環境を整える。
担当 GIGAスクール構想	
<b>特別支援教育・児童理解</b>	①東本郷スタンダードや月目標を、教職員が共通理解の下、一貫した児童指導を行う。②SSW、学校カウンセラーと連携し、学校・家庭・専門機関の連携を図る。定期的な校内委員会を開くとともに、必要に応じて、専門機関とのケース会議を設ける。③今年度重点予算を組み、教室・特別教室の整備を進め、だれもが安心・安全で充実した活動が行える環境づくりを行う。
担当 特別支援教育	
<b>安全教育・管理</b>	①児童が日常の安全な生活を実践していくために、各教科・道徳・特別活動等の教育活動で扱ったり、児童保健委員会でも重点的に取り扱ったりして、必要な資質や能力を身につけることを目指すようにする。②避難訓練を通して、的確な判断のもと自らの安全を確保するための迅速な行動をとれる能力を身につけることを目指すようにする。③災害や事故に迅速に対応できるよう、学校・家庭・専門機関の連携を図り、組織的に活動できる環境づくりを行うようにする。
担当 防災・安全教育	